

こころの不調／パワハラですよ!といわれなかったために

2020年10月20日発行・発売（毎月20日発行・発売）
第40巻第13号（通巻534号）ISSN0389-8326

月刊 ナーシング

Nursing

11

2020
Vol.40 No.13

患者さんも
あなたも

特別寄稿

世界の
栄養状態のキーワード
“スタンディング”とは?

こころの

【特集1】
コ・ロ・ナ・禍の今だから
知っておきたい

不調

【特集2】

それ、

「パワハラ」

ですよ!

といわれなかったために

パワハラ防止法施行されました

Gakken

世界の看護

外国人看護師を受け入れる現場は？海外で働く日本の看護師はどう過ごしているの…？日本と海外を結ぶ看護に精通する園田友紀さんが、毎月、world wideな現場をお届けする連載です。

公益財団法人ときわ会常磐病院
看護部 EPA事業看護師受け入れ推進室、福島県立医科大学大学院公衆衛生学講座修士課程
看護師/保健師 園田友紀



外国人看護師が日本の病院で働いて感じたこと

来日のための研修

日本の病衣を着て寝衣交換の練習もするそうです！



日本とインドネシア、フィリピン、ベトナムの各国間で結ばれた経済連携協定 (Economic Partnership Agreement, 以下EPA) による外国人看護師候補者の受け入れは2008年に始まり、現在まで1,421人の外国人看護師が来日しています¹⁾。私が働く常磐病院(福島県いわき市)では、2015年からベトナム人看護師の受け入れを行っており、現在5人の看護師と3人の看護師候補者とともに働いています。前回は一緒に働くことで見てきたベトナムと日本の看護の違いについてご紹介しましたが、今回は3人のベトナム人看護師たちが日本の病院で働くなかで感じたことをお伝えします。

サッカー観戦に熱くなる医療スタッフと患者さんinハノイ



国旗を掲げて応援！

ハノイにある大学病院を見学時、サッカーのベトナム代表チームと韓国代表チームとの交流試合中で、テレビの前は人だかりでした。患者さんだけではなく、医師と思われる白衣の方もちらほら...



来日して体感する超高齢社会・日本

「日本が超高齢社会というのは、来日前に勉強しました。でも、こんなにお年寄りが多いなんて、思ってもいなかった！」そう話すのは、看護師3年目のダン・ティ・ミン・ハイン(38)さん。ベトナムでは漢方を中心とした東洋医療を専門に扱う国立病院に勤務していましたが、現在は当院で短期間の手術や検査入院も多い泌尿器科病棟に勤務しています。「日本だと高齢の患者さんが多いから、転倒予防のための見守りや褥瘡の処置とか、(疾患に対する治療以外の)仕事が多いです。ベトナムでは患者さんが若くて動けるので、処置の時以外は、散歩をしたり体操をしたりして過ごしています」。病棟のスピード感に慣れるのが大変かと思いきや、どうも認知機能やADLが低下する高齢患者の対応に苦戦しているようです。

一方、ハノイでは…？

筆者は2018年と2019年の12月、ハノイの大学病院を見学しました。印象的だったのは、患者さんがベッド上でスマートフォンを片手に家族とビデオ通話をしていたり、点滴をした患者さんが待合室や外来のテレビの前でサッカーのベトナム代表戦を熱狂的に応援していたこと。そして振り返ると、病院で出会う患者さんが20代～50代と日本と比較して患者さんの年齢層が低く、活動的でした。確かにベッドはベッド柵もなく、腰掛けてやっと足が床に着く高さ。もちろん日本の病院で一般的な低床ベッドは見当たりませんでした。調べてみると、ベトナムの中位年齢^{注1}は32.6歳なのに対し、日本は48.6歳。また高齢化率についてはベトナムが7%に対し、日本は28.4%と大きな差があります。私たちが日本で慣れ親しんでいる療養環境は、主たる患者層である高齢者に配慮した設計であることが窺えます。

注1：中位年齢：人口を年齢順に並べ、その中央で全人口を2等分する境界点にある年齢。

入院期間と医療費

「日本で1週間の入院」 ベトナムでは…?

またベトナムと比較して日本は「入院期間が長い」と評するのは、自身も日本での入院を経験したファム・ティ・トゥエットさん(29)。主治医から手術を含めた約1週間の入院を提示されたとき、「長すぎますね。その間、仕事を休まなければならないです。ベトナムでは同じ手術で入院は短くて2日、ふつうでも3日です」と、入院期間に不満そうでした。

「ベトナム人は手術が終わったら、すぐ帰ります。お金がかかるから入院は手術の時だけで、退院後は通院で傷の治りを確認したり、薬が出されたりします」日本では手術後の創傷だけではなく、全身の回復を促進し、感染を予防することが重視されますが、状況が異なるようです。

私たちは“診療後に支払い”ですが…

アメリカのように医療費が高いから受診を控えるのか?と思いきや、意外にもベトナムでは国民の約80%が健康保険に加入しています。この健康保険は強制保険と任意保険の2本立てで構成されており、年金受給者や少数民族、学生、6歳未満の子どもは保険料が半額、もしくは全額免除になるといった弱者に対する配慮もなされています。

一方、日本と異なり治療費は全国一律でなく、内容も地域や病院によってさまざまです。そのため多くのアジアの国と同様、ベトナムの医療費は前払いになっています。外来受診時には受付でおおよその診察費や医療費が伝えられ、救急であってもまず医療費の支払いが可能かを確認されます。

トゥエットさんの不安は…

トゥエットさんは入院期間が想定より長く、医療費の目処も立たないことが不安だったようです。

そこで日本で働く在留外国人の場合、日本の公的医療保険に加入していること、高額療養費制度を利用すると入院費用に上限が適用されること、またクリティカルパスを使い治療の過程と必要性を伝えるとホッとした表情になり、最終的に

納得して治療を終えました。

日本人は家族に冷たい!?

お見舞いに来る家族の様子に カルチャーショック

療養病棟で勤務するトラン・ティ・ホアイ・ニャンさん(28)は、患者さんのお見舞いに来る家族の様子に衝撃を受けたと話しています。

「日本の看護の勉強をするなかで、患者さんの家族が病院に泊まってお世話することはできないことは知っていました。しかし、実際に日本の病院で働き始めて、患者さんが一人で病気と闘うのを見て、胸が苦しくなってきました」

「また、日本で働いてショックだったことがあります。それは、患者さんが一人きりで亡くなっていくことです。私は、家族は病院に来る時間がないのかな?とか、関心がないのかな?とか思いました。ベトナムでは患者さんが一人で亡くなることは少ないので、日本人は冷たいと思いました」

家族

ニャンさんは3人兄弟の末っ子ですが、生まれ育った中部地方では子どもの数も多く、親戚も近隣で暮らすことが一般的のようです。また結婚し実家を離れても、家族が集まって食事をしたり歓談することも日常的。親兄弟が入院となると、それこそ一大事、親戚が交代でお見舞いに行くだけではなく、家事を助け合うことも当たり前のようです。

その背景にあるのは、「家族は社会の細胞」というベトナム独自の考え方です。「よい家族があってこそよい社会があり、社会がよくなれば家族はさらによくなる。社会の核は家族なのだ」という建国の父である故ホー・チ・ミン国家主席が提唱したこの考え方は、市民だけではなく職場にも広く定着しています^{3,4)}。

職場も家族の都合であれば休暇を融通したり、職場主催の食事会や社員旅行には家族や恋人も参加できたりと、社会全体で何よりも家族を優先する文化が根付いています。だからこそ、完全看護の日本と理解しつつも、頻回にお見舞いに来ない家族に疑問をもち、一人で過ごす患者さんに心を痛めたのでしょう。

プリセプターと



プリセプター：新人看護師の看護技術やアセスメント、対人関係の指導を担当する先輩看護師。ベトナム人看護師のプリセプターは経験を重ねて、多様な視点やアプローチが可能な中堅看護師が担当しています。

患者さんや家族の対応が難しい時はサポートしてもらい、少しずつ慣れてきました！

「当たり前」を超えて

さて、3人のベトナム人看護師たちの感想はいかがでしたか？

価値観を共有するには…

私たちが外国人とかわる際に、まず注目するのは「言葉」でしょう。正確な情報が治療、そして生命に直結する医療の現場ではとくにそれが顕著です。外国人患者が増えるなか、医療通訳やタブレット端末を準備する医療機関も増えつつあります。しかし、これだけでは問題の解決にはつながらないのではないか、私は常々そう考えています。

私たちにとってあまりにも日常的すぎて疑問すらもたなかったことが、彼らの視点からだと疑問をもったり納得し難いものであることを、感じていただけたでしょうか。言葉が通じて「何となく」では価値観は共有できません。

阿吽の呼吸?

病院や看護を改めて振り返ってみると、身近な環境において日本独自の慣習や制度を前提に作られていること、また普段の意思疎通が「病院」で働く「日本人」「看護師」という共通のバックグラウンドをもった者同士で行われていること、だからこそ阿吽の呼吸、いわば低コストのコミュニケーションが成立できることに気がつくます。

しかし、それに慣れすぎると、「当たり前」を身につけていない者に対し批判的になったり、邪魔者扱いをしてしまったりということも残念ながら起こっています。私自身、「当たり前」をくみとることはかなり無茶な要求だと頭では理解していても、言葉や表現を変えて何度も説明するのにうんざりし「もういいよ」と言ってしまう、後になって反省することも少なからずあります。

私たち日本人看護師も漠然と外国人看護師に求めるだけではなく、「当たり前」を可視化し、何を求めているのか具体的に表現していくことが必要でしょう。

当たり前をマニュアルに！

「当たり前」を可視化する一環として当院で作成したのが、外国人看護師向けの申し送り用語集です。たとえば「そののセイショク10ミリ取って」と言われれば、私たちの頭の中では「セイショク」→「生食」→「生理食塩水」と即座に変換されます。しかし試験対策として教科書の正確な単語を勉強してきた外国人看護師は、「セイショク」は生理食塩水とは異なる新たな単語として変換されていました。既知の単語ですら伝え方次第で伝わらない！そう気づき、朝夕の部署の申し送りにジッと耳をすましてみると、医療現場の略語やカタカナ英語、外来語、擬音の多いこと、私たちは「当たり前」になりすぎて、あえてマニュアルを作ろうと考えもしませんでした。どうやら文書化されていないことが学習の障害になっているようでした。そこで申し送りや日々のコミュニケーションのなかから教科書や辞書に記載されていない、または医療現場では異なる意味をもつ単語を抽出し、使いやすい場面別に分類してみました。彼らに見てもらうと、日常目にしているモノが臨床現場で異なる表現に変わること驚き、「何でそうなの」と憤慨する方もいました。これは当院のベトナム人にかぎった現象ではない、きっと日本で働く外国人看護師や介護士は困っているはずだ。その思いから、この単語帳は「メディカルスタッフ必携 7か国語対応イラスト会話・単語帳」(学研メディカル秀潤社)の巻末付録として出版されるにいたりしました。

世界の看護師、共通点は？

このように異なる価値観や複雑な言語が背景にある日本で外国人看護師が「看護師不足の打開策」になるには、まだまだ課題は多いと言わざるを得ません。しかし希望もあります。「日本人は冷たい」と話したニャンさんは、最後にこう

話ってくれました。

「でも、患者さんに気持ちよく過ごしてもらうために、日本では看護師がよい環境を作り、気持ちの配慮をします。だから患者さんは安心して亡くなることができることを知りました。日本とベトナムは患者さんへの関わり方は違うけど、その背景に気持ちや考え方の違いがあることにも気付きました。モデルは違っても、いつも患者さんの気持ちがいちばん大切です。患者さんにとって病院が家のように穏やかに過ごせるようにしていきたいです」

日本人看護師として

患者さんに安全な治療やケアを提供するという共通の目標を掲げる仲間として、違いを認め合い、共に考える姿勢で関わっていききたい。「当たり前」がないからこそそのハレーションを逆手にとり、それを楽しみ学び合えるチーム、文化を作っていきたいと思っています。

連載の予定

2020年

10月号

ベトナムと日本の看護の違い

11月号

外国人看護師が日本の病院で働いて感じたこと

12月号

次号 日本人の看護師が外国人看護師と一緒に働いて感じたこと
(同期、プリセプター、上司から見た外国人看護師とは？)

2021年

1月号

外国人患者を受け入れる際に注意すべき点

2月号

海外の病院で勤務する日本人看護師へインタビュー
(EPA看護師と逆の立場)

3月号

外国人看護師が日本の国家試験を受けるにあたり
苦労したこと

ご質問・ご意見募集！

連絡先 Mail: sonoday0828@gmail.com Twitter: sonoday3
Twitterでハッシュタグ #世界の看護 をつけて感想やご意見、ご質問など聞かせて下さい！ 誌面でご紹介する際には、メールもしくはDM (ダイレクトメッセージ) にてご連絡いたします

引用・参考文献

- 1) 総務省統計局：世界の統計2020。 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html#c02> (2020年8月閲覧)
- 2) 国際協力機構 (JICA)：ベトナム高齢化 社会保障の観点から。News FROM ベトナム事務所, 129:1-7, 2019。 <https://www.jica.go.jp/vietnam/office/others/ku57pq00000g86de-att/monthly1906.pdf> (2020年7月閲覧)
- 3) 桂良太郎：ベトナムにおける家族の特徴と福祉。奈良大学総合研究所報, 99-109, 2002。
- 4) 柴原君江：高齢化が進むベトナムにおける家族の役割認識。田園調布学園大学紀要, 10:153-178, 2015。